

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行人 新健康協会

〒813-0001
福岡市東区唐原6-7-1
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十八年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

神とガラス玉

私が唱えている医学の誤謬の根本としては、何といっても医学を科学の分野に入れた事である。元来万有の構成原理は、人間と人間以外は一切とは、根本的に立別けられており、本質も勿論異なっている。それというのは元来人間は地球の王者であり、支配者であるに對し、他のあらゆる物質はことごとく人間に隷属しており、人間の自由意志のままに動かされ、人間の肉体を保護し、人間生存上必要なそれぞれの役目を果たしているからであって、分かりやすくいえば、主人と家来との違いさである。この理によって人間以外のあらゆる物は、人間が作った科学によって思いのままに変化させ、進歩させることが出来るのは当然で、それが為現在の如き素晴らしい文明が構成されたのである。しかも最近に至っては、原子科学というような驚くべき発見がある等々、これ等現実を見る人間は、ついに科学一辺倒となり、何物でも五感に触れないものはことごとく非科学的という、今日の人間にはお詭向の魅力ある言葉を以て、抹殺してしまい、これが社会通念となつていのである。特にこの考え方が知識人に多く、文化人のマークとなつている程で、形は違うが、

迷信邪教信者と何ら撰ぶところは無い。その結果、科学の分野にあらざる人間生命の問題にまで立入ってしまった。それが医学であるから、むしろ僭上沙汰といつていい。そのような文化的侵略者たる医学としたら、真の医学ではないことは勿論であり、このような非医学を以て生命の神秘を暴こうなどは、木によって魚を求むるのと同様である。

この意味から私は医学の誤謬に對し、事実を以て彼等の目を開かせ、真の医学を教えるので、これが神の意図である。つまり病だけは神の力以外地球上に治す力はある得ないのである。これを一層徹底的に書いてみると、今日医学が病原としているのは、いうまでもなく黴菌である。菌発見以来医学が画期的進歩を遂げたのは衆知の通りであつて、その後長期間にわたる経験によつても、予想外に不成績であるにもかかわらず、邪教信者と同様一度信じた上は、それが逆結果であつても目に入らないという迷妄である。

そうして前記の如く、病原はことごとく菌としており、菌さえ殺すことが出来れば、万病は解決されると固く信じ、そのみに向かつて研究している。従つて顕微鏡というガラス玉が、医学の鍵を握つている訳であるから、このガラス玉こそ人間の生命を自由にしている神以上の存在である以上、万物の霊長様も実に情ないものである。この頭脳によつて宗教を観る時、神の存在を否定するのにも当然であり、なおこれで分かつたことは医学が尊い人間の肉体をやたらに切り刻むのも、これ又当然である。この意味において、私が今実行しつつある救いの業こそ、神とガラス玉との闘争であつて、どちらが勝つかこれは読者の判断にまかせるとして、次に重要なことは、現在顕微鏡で見うる限度は二十万倍とされている。これのみ

と現在は二十万倍以内の大きさの菌を対象とし、その菌を殺す方法に専念しているのである。ところが実は菌の限度は二十万倍どころか、百万倍或いは一千万倍にものぼるか知れない。否それ以上無限かも知れないと推定される。例えば大空の無限なる如く、その反対は無限小であるからである。としたら、帰するところ病菌といえども無限小であるに違いないから、これを殺すとしたら、科学で造る有限力では駄目であり、どうしても無限なる病原は、無限の力なくてはならない筈である。無限の力とは勿論神の力であり、神の光である。この光を自由無碍に行使する機関こそ特殊の人間であり、その人間こそ私というものである。何よりも現在現わしつつある治病の実力をみても分かると共に、ますますそれを信ずる人々が増えつつある趨勢を見ても、何等疑うところはあ

るまい。自分でいうのも心苦しいが、かくの如き超人的力を有する者は、古住今来一人もないのは誰も知るところであり、昔からいわれている神人合一もこのことである。故にこの著を読めば分かるが、その説くところ神霊解剖であり、人間生命の本源であり、キリスト、釈迦、マホメットの三大聖者を始め、如何なる聖者も説き得なかつたところの深奥無極の真理の開明であり、天国の福音でもある。

浄霊体験記 2ページ 3ページ

- 激しい首の痛み手術せずに良くなる
- 子供を授かり私は幸せ者です
- 浄霊を受け五カ月後乳ガンが消えた...
- 息子を授かった奇跡に感謝...

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

後縦靱帯骨化症

激しい首の痛み
手術せずに良くなる

総本部
久田光一(72)



私は母親が会員でしたので、母親のお腹にいるときから浄霊を受けて育ちどんな病気の時も浄霊で良くなりました。

二〇一九年の二月三日、六十七歳の時でした。私は数日前から首と両肩に痛みと怠さを感じていたので、その夜、急に首を動かすことが出来なくなりました。後ろを振り向こうと首を動かすと肩に激痛が走り、前を見ることしか出来ませんでした。今までに経験したことのない痛みで苦しく、横になろうとしても激痛が走り、息子の介助なしでは寝ることも起きることも出来なくなりました。

翌日、体を起こそうと思っても自分一人では起きることが出来ず、ベッドの手すりに結んでいた紐を引っ張って、何とか体を起こすことが出来ました。しかし、顔を洗うことも、服を着替えることも思うようにはいかず、一つ一つの動作に痛みが走りました。

息子も心配してくれ、浄霊をしてくださいました。また、協会の人からも浄霊を受けることが出来、徐々に首が動かせるようになっていきました。

二月五日には自宅近くの香椎支部に出張浄霊をお願いし、自宅で浄霊を受けました。すると痛みも落ち着いて、手足の動かせる範囲も広がってきました。

翌六日になると、自宅の二階に上がることも出来るようになり、着替えも楽になりました。痛みが楽になっていく嬉しさに感謝でいっぱいになりました。

浄霊しかない!

今回のような激しい痛みは今までに経験したことのない痛みでしたので、総合病院で診察を受けることにしました。すると「後縦靱帯骨化症」と診断され、早期の手術を勧められました。しかし、私は今までも浄霊でたくさん救われてきましたので、今回も浄霊を受けたいと思いました。その上、「首の後ろを切つて手術する」と聞きましたので手術する気にはなりません。実際に同じ手術をした人で両足がマヒするという後遺症が残った方もいると聞きましたので、私はやはり浄霊しかないと思いました。それからしつかりと浄霊を受けました。すると肩や腕の痛みが徐々に楽

なりました。

おかげ様で十八日後の二月二十日には仕事も出来るようになりました。その後は激しく痛むこともなく、数カ月後の九月六日に病院に行きましたが、「異常なし」との診断でした。その上、あれだけ苦しんでいた寝起きや着替え、車での移動等、今は生活に何の支障もない状態にしていたできました。私は本当に嬉しく、心から明主様に感謝し上げました。

私は今回のことで、浄霊の有難さを改めて知ることが出来ました。日々感謝の気持ちで過ごしていき、これから多くの方に素晴らしい浄霊をお伝えしていきたいです。
明主様、誠にありがとうございます
(福岡県福岡市)

浄化作用

人間には体内の毒素(=汚物)を排除して健康を促進しようとする働きがあります。これを称して自然良能力と言います。

例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素がハナやタンとなって排せつされるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

卵巣のう腫

子供を授かり
私は幸せ者です

志免支部
米田真理子(77)



私が初めて浄霊にご縁を頂いたのは小学生の頃です。母が新健康協会に入会していたので、よく長崎支部へ兄と妹と一緒に連れていってもらい、そこで浄霊を受けていました。あの頃、叔母の右膝下にオデキが出来ていて、それが化膿し拡がっていました。長い間、そこから血膿がたくさん出ていたのですが、浄霊で良くなっていったことを子供ながらに記憶しています。

一時は浄霊から離れた時もありましたが、母が長崎支部の方と町ではあったり会い、「もう一度入会してはどうか」という話になり、母は長崎支部で再び入会させて頂きました。その後、母から「あなたも入会させて頂いたら良いよ」と言われ、私も明主様に再びお縋りたいと思いい、昭和五十五年九月二十八日、三十三歳の時、当時福岡に住んでいましたので、福岡支部で入会をしました。

昭和五十七年、三十五歳の時、医師から「左の卵巣に夏ミカン位の卵巣嚢腫がある」と診断されました。手術をするか迷いましたが、二人目の子供が欲しかったので手術をすることを決断しました。手術の時、「右側にも子宮筋腫があります、まだ子供を授かりたいだろうから、そのままにしておきました」と告げられ、ホッとすると同時に不安な気持ちもありました。それからの一年、毎日浄霊を受けました。すると昭和五十八年、三十六歳の時に妊娠することが出来たのです！本当にうれしく、まさしく奇跡と思われました。子宮筋腫の影響もなく、子供もお腹の中で順調に育つていき、昭和五十九年三月、無事に女の子を出産しました。私は喜びに堪えませんでした。二人の子供(長男は入会前に出産)に恵まれた私は本当に幸せ者です。おかげ様で子供たちも元気に育ちました。
昭和六十三年、四十一歳の時に宇美町に移つてからは志免支部に行かせて頂いております。



二〇一七年、私が七十歳の時、右肩から右上腕が痛み出し、最初は筋肉痛と思っていたのですが、だんだん痛みが強くなり、手を後に廻したり、上げたりすると特に痛みがはしり、洋服の着替えも出来ないほどでした。夜中も右肩から右上腕骨がうずき、眠れないほどでした。

おかげ様で毎日浄霊を受けると、次第に具合も良くなり、痛みもどんどん和らいでいきました。約二十日間完全な痛みが取れ、生活の不自由を感じることなく過ごせるまでになりました。明主様、誠に有難うございました。
(福岡県糟屋郡)

アメリカ

浄霊を受け五カ月後
乳ガンが消えた...

ロサンゼルス支部
パトリシア・ヴィノラス (56)



私は一年に一回、定期検診を受けていました。そして、二〇二〇年十二月三十日、この日も定期検診として乳ガン検診であるマンモグラフィ検査を受けました。すると、新年を迎えた一月一日、医者より手紙が届き、「左脇の下に疑いがあり、追加の画像診断が必要」ということを言われました。二月十七日、超音波検診に行くと、直径約二センチの楕円形の腫瘍があるということでした。私は医者に勧められるまま、三月十九日にバイオプシー検査（生検組織診断）を受けました。すると二十三日に医者から電話があり、「ステージ3の濾胞性リンパ腫が発見されたので専門医に診てもらわなければならない」と言われました。私が最初に思ったことは、手術や抗がん剤治療などの医療は何も受けたくないということでした。そして「神様、どうかお助けください。正しい道に導

いて下さい。正しい人に会わせて下さい」と心の底から祈りました。それまでは何の症状もなかったのに、検査を受けた直後から左半身が痛むようになりました。

私の祈りが届いた...

三月二十七日、カイロプラクティックに行き、すでに顔見知りになっていた受付の女性にガンと診断されたことを話しました。すると彼女は、「浄霊というヒーリングをする所があるから、ここに電話してみてください。私はこの会員の方から紹介されて、まだ行ったことはないけど、あなたは行ってみるべきよ」とロサンゼルス支部の電話番号をくれました。

私は翌日支部を訪ね、責任者の人々に色々と説明を聞き、初めて浄霊を受けました。すると体の調子を良く感じたので、その後も浄霊を続けてみようと思いい、その日からほぼ毎日浄霊を受けに行きました。

浄霊を受けている期間にも、めまいや左半身の痛み、呼吸困難、アレルギー反応などの症状がいろいろと起きてきました。それが、それらの症状が健康になるための「浄化作用」であると分かり、感謝の気持ちとともに浄化作用を受け入れ、しっかりと浄霊を受けながら乗り越えていけるようになりました。そして自分でも浄霊が出来るように...と思いい、四月二十六日に入会しました。四月二十八日、以前から予約されていたガン専門医に会いに行き、PET スキャン（陽電子放出断層撮影）を受けるように言われ、検査を受けた結果、左頸部と左胸、左骨盤下にリンパ腫が増えているのが見つかりました。

この時、医者は二つの選択肢を提示しました。それはまず一カ月間の抗体リツキシマブ治療（ガン細胞だけを標的にするリンパ腫などの治療）をする。もう一つは何もせず様子を見ながら三カ月毎に検査に通うことでした。私は迷わず、後者の「何もせずに様子を見たい」と医者に告げました。家族もこれに賛成してくれました。

リンパ腫がなくなった...

その後は支部で二回、家でも自分で浄霊を受けました。支部で色々話を聞くにつれ、浄霊がどのように作用するのかということや、明主様の御教えを学ぶことが出来ました。浄霊は私がこの状況を乗り越える為に必要だった自信と安らぎを与えてくれました。私は病院に行く時、いつも恐怖と不安でいっぱいでしたが、支部はその反対で、行く度に気持ちが落ち着き、明るくなりました。夫も私の変化を見て私が出来るだけ浄霊を受けられるように...と、三人の子供たちと一緒に協力してくれました。

前回の検査から四カ月後の八月二十五日、触診だけの予定で予約を入れていたのでガン専門医に会いに行きました。医者は私の左脇の下を触診して首を傾げました。「リンパ種が見つかからない」と不思議そうな顔をして骨盤の下も検査をし、「ここもリンパ腫がなくなっている」と困惑した顔つきで「あなたのガンがどうなりましたのか?」と言いました。それを聞いた私は安堵とともに感謝の気持ちで満たされました。浄霊と浄化作用により、こんなに嬉しい結果をいただけると、どれだけ感謝しても感謝し

きれません。

夫と三人の子供たちの無条件な愛とともに、浄霊は私に希望と力、そして真の恵みを与えて下さいました。世界中の人が私のように明主様に救われますことを心から祈ります。

(アメリカ・ロサンゼルス)

ネパール

息子を授かった
奇跡に感謝...

バクタプール支部
スミトラ・ラマ (47)
アルサ・ラマ (15)



私は二〇〇二年に結婚をし、一年後には娘を授かることが出来ました。おかげ様で娘は元気に育っていきました。そしていつか二人目の子どもも欲しいと思うようになりました。

しかし、それから子どもは出来ませんでした。私もどうしたらいいのだろう...と悩んでいた時、私の伯母が「浄霊を受けてみては...」と浄霊を勧めてくれました。叔母は浄霊を受けたことがあり、「一度体験したらいい...」と

教えてくれました。私も妊娠のためにいろいろ試してみたいと思っていましたので、浄霊を受けてみることにしました。

浄霊は特別な治療をする訳でもなく、薬を服用する訳ではないので、私はこのまま浄霊を受けて様子を見ようと思いました。

それからずっと浄霊を受け、時には妊娠出来るかな...と考えることもありましたが、なんと五年後妊娠することが出来たのです。私は嬉しくなり、必ずこの子を出産すると誓いました。

そして二〇〇九年十月三十日、待望の息子を授かることが出来ました。二人目の子どもを抱くことが出来、心から明主様に感謝申し上げます。誠に有難うございます。

(ネパール・バクタプール)

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。まずは試されてみてはいかがでしょう。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

十三代中里太郎右衛門

「叩き唐津翡翠搔落し」

魚文壺

まず目に飛び込んでくるのは鮮やかな青い色。その青も壺のカーブや縁、表面の凹凸、文様の形に応じて、深い藍色から素地が透けるほどのところまで、豊かな濃淡の表情があります。器の全体に魚の絵柄が施されていますが、よく見ると黒鯛や鱈などそれぞれの特徴を備えたいろんな魚がいて、文様になっているにも関わらず、海のような色も相俟ってあたかも水流にのって泳いでいるかのようにです。

本作は十三代中里太郎右衛門が手がけたもので、平成十（一九九八）年第三十回日展への出品作です。十三代は唐津焼の伝統技法再興を成した十二代の長男としてこれを支え、古唐津の研究をさらに進めました。中でも、粘土を紐状にして積み上げ、内側にあて木をあてて外側から叩くという、唐津焼の基本的な成形方法である「叩き」については、九州、日本のみならず、世界各地の叩きの技法を変化の歴史とともに現地に赴いて調査し、詳細な記録を研究論文として残しています。十二代が復活させた唐津焼の叩きと比較することによって伝播の流れを見出し、唐津焼の起源にも迫りました。

魚の文様は、象嵌の技法でつくられています。象嵌とは成形した器の表面が乾かないうちに文様を陰刻し、そのなかに白土や赤土を塗り込め、少



し乾いてから表面を削り落として文様の形を出す方法で、本作では一度焼き締めた後に釉をかけて焼成しているそうです。多くの象嵌では透明な乳白色になる長石釉をかけて焼くことで白土の部分は白く、赤土の部分の黒く発色させますが、本作では炭酸銅とソーダ灰で調合した釉薬を使うことで、全体の青い発色と、赤土象嵌の部分の溶け込んで流れ落ちる深い色が生まれています。こうして十三代は伝統技法を全力で追究し、実践していますが、一方で本作のような大胆な色使いや写実的な図案をもって表現する現代的な感覚をも磨いたことが見て取れます。特に図案に関しては、日々行っていたたくさんのスケッチが元になっていたことでしょう。伝統を今に残すことを十三代にしかできない方法で実現していたのです。

解説 松田愛子

中里太郎右衛門大展示会開催
「古唐津」とよばれる十六世紀の古陶に始まる唐津焼。豊臣秀吉の文禄・慶長の役によって、大陸よりもたらされた技術と文化がいはやく花開いた地、唐津。そのとき以来、連続と朝鮮陶工の技術を今に受け継ぎ、さらにそれを発展させて現代の生活に合った作品づくりを続けてきた中里太郎右衛門家。
本展では古唐津や、藩により厳しく統制され、門外不出の技法で作られた幻の唐津焼「献上唐津」に加え、中里家五代直筆の古文書、また十二代太郎右衛門中里無庵と交友関係のあった陶芸家の荒川豊蔵、日本画家の伊東深水、洋画家の中川一政らの書簡など、中里家秘蔵のコレクションを展示致します。
国内窯業史に大きな革新をもたらした唐津焼。その唐津の地に生きた朝鮮陶工たちの知られざる記録。中里太郎右衛門家約四百三十年の歴史を辿る展示会となります。

唐津焼四百年の歴史が今、紐解かれる――

中里太郎右衛門大展示会

〔特別展〕

令和6年
6/18日(火)～9/16日(月)
新健康協会 晴明会館
10:00～17:00 (最終入館 16:30)
休館日 第一、第二日曜日、月曜日(祝祭日の時は翌日)
入館料 一般1,000円、高大生800円、中学生以下無料

主催/新健康協会
協賛/ 福神綜合印刷株式会社 株式会社 プリスにしま 株式会社 永瀬電業社 株式会社 永島建設 株式会社 大平ビル 株式会社 富士丸商運 CALLERY 一番館
協力/ 中里太郎右衛門陶房



場所：新健康協会 晴明会館
会 期：令和6年6月18日～9月16日
時 間：10時～17時
(最終入館16時30分)
休館日：第1、第2日曜日、
月曜日(祝祭日の時は翌日)

お問い合わせは晴明会館まで
電話：(099)2661-1535